

科目名	社会福祉学			ナンバリング	BSS631	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員					

授業の概要	社会福祉学は、医学・看護学との近接領域であり、密接な関連性がある。特に、福祉サービスの対象となる児童、障がい者、高齢者などは、社会福祉関連サービスのみならず、例外なく保健医療サービスの提供を受けている。サービス提供上、医療・看護と社会福祉の緊密な連携や相互理解のうえに立った役割分担が、利用者の日常生活維持にとって、不可欠なものである。本講義では、看護職が持つべき社会福祉の基礎的な理念を踏まえて、現代の我が国の社会福祉制度について学修する。						
到達目標	1.社会福祉法制度に関する様々な基礎知識と現代社会における社会構造的課題の理解と分析ができる。 2.わが国の社会福祉法制度を学び、各種社会福祉サービスの現状と課題についての理解と分析ができる。 3.福祉ニーズを抱える対象の理解と、多様な生活課題の改善や解決に向けた取り組みを理解できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	テキスト、資料を中心に講義を進める。 講義資料のパワーポイントは講義の事前にmanab@へアップするため、目を通すなどして予習をする。 予習では、わからない専門用語を予め調べておく。さらに						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
		5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.現代社会における社会福祉の必要性について説明できる。 2.わが国の社会福祉の理論や発展過程について説明できる。 3.社会福祉の対象と実践方法について説明できる。 4ライフサイクルに応じた社会福祉制度について説明できる。	1.現代社会における社会福祉の必要性について、日常生活における生活課題に関連した説明をすることができる。 2.わが国の社会福祉の理論や発展過程を諸外国の諸制度と比較し説明できる。 3.社会福祉の対象と実践方法について、その概念と体系を踏まえ説明できる。 4ライフサイクルに応じた社会福祉制度について、その施策内容と活用方法について説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						50%
小テスト・授業内レポート	○		○				20%
宿題・授業外レポート	○	○					20%
授業態度・授業への参加	○		○	○			10%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション 社会保障と社会福祉①	社会保障制度、社会福祉の法制度について概説する。	
	第2回	社会保障と社会福祉②	社会福祉法と六法、財政、組織・実施体制、担い手について概説する。	
	第3回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	現代社会の変化・地域社会の変化、社会福祉・社会保障の動向について概説する。	
	第4回	医療保障について①	医療保障の沿革・健康保険と国民健康保険について概説する。	
	第5回	医療保障について②	後期高齢者医療制度・保険診療の仕組み・公費負担医療について概説する。	
	第6回	介護保障について	介護保険制度創設と背景・概要・課題と展望について概説する。	
	第7回	所得保障について	所得保障制度の仕組み・年金保険制度・社会手当・労働保険制度について解説する。	
	第8回	公的扶助について	貧困・低所得問題と公的扶助、生活保護の仕組み、低所得者対策、近年の動向について解説する。	
	第9回	社会福祉の分野とサービス①	高齢者福祉、施策、老人保健事業について概説する。	
	第10回	社会福祉の分野とサービス②	障害者福祉の定義と実態、障害者福祉の理念、制度の変遷、関連施策について解説する。	
	第11回	社会福祉の分野とサービス③	児童家庭福祉、児童と育ちの環境、児童にかかわる法と施策、少子化対策と子育て支援、児童虐待対策、子どもの人権と貧困対策について解説する。	
	第12回	社会福祉実践と医療・看護①	社会福祉援助とは、個別援助技術、集団援助技術、間接援助技術としての地域援助技術、社会福祉調査法、社会福祉運営管理、社会活動法、社会福祉計画について解説する。	
	第13回	社会福祉実践と医療・看護②	関連援助技術としてのネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、検討課題、連携の重要性について解説する。	
	第14回	社会福祉実践と医療・看護③	社会福祉実践と医療・看護との連携、連携の場面とその方法について概説する。	
	第15回	国内外の社会福祉の歴史	国内外の社会福祉の歴史、現代社会における社会構造の変化と生活支援についての概説をする。	
	試験	期末試験は60分のペーパー試験を実施する。国家試験問題に準ずる水準で、試験前にプレテストを実施後、翌週に本試験を行う。		
授業の進め方		教科書と資料の内容を参考に、シラバスに沿った講義を進める。適宜、レポートを課す。		
授業外学習の指示		授業資料はmanab@へアップしておくため、講義終了後に該当するテキスト部分を読み込み復習をしておく。関連するニュースや新聞にも目を通し、社会の変化や課題について理解を深めておく。 （授業外学習時間： 毎週 60 分）		

教科書	福田素生 著者代表『系統看護講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③』医学書院、最新版。 福祉小六法編集委員会 編 『2019年度版 福祉小六法』 みらい
参考書	講義において適宜、紹介。
参考URLなど	厚生労働省ホームページ(http://www.mhlw.go.jp)
その他	